 © ISAS/JAXA 2016

2016 年 3 月 2 日

宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所
宇宙環境利用専門委員会 委員長　石川正道

第 30 回宇宙環境利用シンポジウムについて

宇宙環境利用シンポジウムは、今回で開催回数が 30 回となります。本シンポジウムがスタートした第 1 回の状況を調べましたところ、その年は 1984 年（昭和 59 年）で、まさに米国レーガン大統領が年頭教書にて宇宙ステーション計画の推進を発表した年でありました。その後、宇宙科学研究所は、1987 年に「宇宙基地利用研究センター」を開設し、翌 88 年に「宇宙基地利用基礎実験費」による研究コミュニティの支援を開始しました。

振り返って現在の状況はどうでしょうか。ISS 運用開始から 8 年目を迎え、昨年（2015 年）12 月に日本政府は ISS 計画の 2024 年までの参加延長を決定しました。しかしながら、ISS 計画が残り 4 年から 8 年に引き延ばされたとは言え、環境利用研究に対する評価が高まった訳ではありません。折り返し点を越え、終了が迫りつつある状況に何ら変わりはありません。

第 30 回の節目の年を迎えるにあたって、研究コミュニティの皆様にお願いがあります。これまで 30 年に及ぶ諸先輩方のご尽力の賜物である ISS 計画を、無為にフェードアウトすることなく、第30回となる本シンポジウムを励みとして、本格的に post ISS 計画に着手しようではありませんか。いつの間にか出来上がった専門学会の枠を越えて、一つの研究コミュニティとしての連帯感を取り戻そうではありませんか。

第 30 回宇宙環境利用シンポジウムは、旧宇宙環境利用科学委員会の後継となる「宇宙環境利用専門委員会」が昨年 10 月より活動を開始して最初の開催となりました。2 日間（平成 28 年 1 月 19〜20 日）のプログラムは、オーラルセッション数 12、一般講演 45 件、基調講演 4 件に及び、延べ参加人数 107 名のご参加を頂きました。宇宙環境利用専門委員会は、「宇宙惑星居住科学」の大目標の下に、環境利用の目標を地球低軌道の宇宙ステーションから、月・火星など惑星環境の利用に拡大、発展するべく一層の活動を進める所存です。引き続き、皆様のご支援、ご指導をお願い申し上げます。

This document is provided by JAXA.